要　望　書

平成24年　3月　15日

千代田区議会議長

　小林　やすお　殿

〔件名〕**「給食選択制」検討を受けての要望について**

　　氏名　　　　　　　　印　（他　　　名）

　　〒　　　-

住所　千代田区

電話　０３―　　　　―

［趣旨］

千代田区の公立学校及び保育園等において、「給食選択制」導入に向けての試験期間が始まりました。

福島第一原発の事故を受けての保護者の不安を汲んだ「給食選択制の導入」の検討、千代田区のご決断に感謝いたします。

現状においては、給食選択制の導入の試験期間が始まった件について全ての保護者に告知されておりません。全ての児童に平等に制度利用を検討できるよう、今後の本運用においては一部の保護者のみへの告知ではなく、全ての保護者への告知をお願いいたします。

学校によっては内密に弁当持参が認められたケースもあるようですが、本来、食の違いというものは隠すものでもなく、また違う価値観をいがみ合うものでもありません。チェルノブイリでは、事故終息後１０年経っても、内部被ばくの原因となる放射能汚染のある作物が出続けた事から、日本でも今後長期に渡る食の不安が続くと予想されます。その事からも「給食選択制」は今後普通の事となり得る可能性が高いと思われます。その様な状態の中、制度を告知する事は、給食を食べている児童は「新しい制度を知らずに給食を食している」のではなく、より温かく美味しいものを食す事を「選ぶ事ができた」結果となります。また告知する事により、お弁当の児童の増加も予想されます。学校側には少々手間をおかけしますが、お弁当の管理に可能な範囲で配慮していただきたいと思います。

また現在、お弁当の献立について、各学校に対応を一任されているようですが、各学校による対応の差は、学校・保護者共に混乱の原因になります。給食と同じ献立の強要は、兄弟違う学校に通う保護者には強い負担になりますし、そもそも食に対する考え方で保護者は子どもを通わせる学校を選ぶ事もできません。例え同じ献立でも、お弁当に入っているものと給食では、幼児が見ても「違う」と感じるには十分で、同じものを食べるという意味があるのか疑問が残る事でしょう。給食だから美味しいもの、お弁当だから美味しいもの、食材としての特徴も違うはずです。弁当の内容を確認する学校側の手間を省くためにも、区で統一して、持参する弁当の内容の自由を認めていただくお願いいたします。あまりにも児童の持参するお弁当の内容がひどい場合（例えば昼食にカップラーメンや、おやつにチョコレートなど）、必要なのは保護者に対する注意ではなく食育に関する知識だと思われますが、食の不安を抱く食に対する意識の高い保護者ではそれほど心配は無用かと思われます。

温かい給食を食べる児童もいれば、各家庭の味のお弁当を食べる児童まで、「学校のご飯」の風景がガラっと変わってしまうかもしれません。学校側の負担も少々増えるかもしれませんが、「同じものを食べる」食育から、「違うものを認め合う」、「口にするものを考える」という教育をする場に変わったとプラスに捉えて、「給食選択制」という時勢に適応した制度の運用をお願いいたします。

内部被ばくの不安は、これからも長期に続くものか、もしくは今年中にでも不安自体が払拭されるのか、誰にも想像はつきません。尽きましてはこれからも、子どもにとって楽しい食の時間を学校で提供していただきたく、下記事項を要望いたします。

［要望］

ア・千代田区が「給食選択制」を導入した旨を迅速に告知し、来年度に向けて学校・保護者・未就園児の保護者など、誰でも制度の利用を検討できる状態にしてください。

イ・給食を選択した児童・弁当を選択した児童、どちらも平等に扱ってください。児童には安全に学校教育を受ける権利があり、学校は個々の弁当に責任を負わないとしても、保管方法など最低限の補助をしてください。

ウ・弁当の「献立の自由」を千代田区として統一し、学校による対応の違いを無くします。

エ・「違うものを認め合う」「口にするものを考える」という教育を提案してください。